

7月11日

修院長ベネディクト

Benedictus de Nursia

(480頃～547)

～西洋的修道院制の確立者～



「ヌルシアの

ベネディクトゥス」

フラ・アンジェリコ

彼はヨーロッパの父と呼ばれ、ヨーロッパの守護聖人ともなっている。

ベネディクトはイタリア中部のヌルシアで生まれ、497年ローマに行き、修辞学を学ぶ。しかしその当時の学生たちの墮落した姿に失望した彼は、20歳の時にローマ南部の山中にあるスピアコに渡り、洞窟で禁欲的な生活を送るようになる。そのころ隠修士ロマーヌスとの出会いをきっかけに修道士として一生を送ることを決意する。彼の生き方のうわさは次第に地域に広まっていき、その名声も多くの人が知るようになる。そしてヴィコヴァロの修院長になってほしいと依頼され、ベネディクトは承諾し、修道士たちを指導することとなる。

しかし、彼はあまりにも厳しい戒律を実施したために、それに反発する修道士から毒を盛られるという事件が起こる。その危機は脱したが、彼はヴィコヴァロを離れ、再びスピアコの洞窟にもどる。そして彼の弟子たちのために12の修道院を建てる。

その後も伝統を重んずる司祭フローレンティウスに嫉妬され妨害されたりもしたが、529年、ローマとナポリの間にあるモンテ・カッシーノに修道院を建てる。ここで用いられた会則が73章からなる「ベネディクト会則」である。

彼はその会則の中で、修道士の生き方、祈り、礼拝、懲罰、修道院の運営に触れる。それは彼以前にあった東方における禁欲生活の伝統と、西方における修道規則とをまとめたものであった。

また、ベネディクト会は、祈りと労働と神聖な読書を重んじる。単なる禁欲生活ではなく、地域を開拓しながら、また農民たちに技術なども教えながら、修道院生活を送っていった。

ベネディクト会の修道院は今も2,000近くあり、修道士も14,000人ほどいると言われている。また20人の教皇がベネディクト会の出身者である。さらにグレゴリオ聖歌もベネディクト会の修道院において完成したし、ロマネスク建築やゴシック建築にも多大な影響を及ぼした。西洋にとって、まさにベネディクトは「父」なのである。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした修院長ベネディクトは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン